

1. 単元名 「スイミー」(全12時間 本時10時間目)

2. 単元目標

◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。
○身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。
○粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って物語の紹介文を書こうとしている。

3. 「ひびき合う三の丸の子どもたち」をめざすための指導の工夫

研究課題「子どもが解決したい問題をもち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」
手立て・・・子どもの願いや思いの育ちを見とった単元構想と授業づくり
低学年ブロックテーマ「感じる心、素直に表現する自分」
・人の言動に何かを感じる姿
・自分の思いや他者からの刺激を受け止め、素直に表現する姿

<聴く・話すについての指導>

普段の生活や学習場面、「校長先生からの問いかけ」や「ひびき合いの朝会」など、聴き方や話し方に絡めて子どもたちと考えてきた。考えをクラスに掲示することや、「話し方名人」と「反応名人」として、お手本となる言葉を書きとめているところである。

「聴く」という点では、一生懸命に友だちの話を聞こうとする児童が多い。体の向きを変えたり、視線を向けたりと自分からできる児童が増えてきた。話し手は、聴き手が全員見るまで話し始めないことがあり、聴き手は、その時間が長いと一生懸命聴くという気持ちがだんだん薄れていってしまう様子がある。そのため、全員にこだわらなくても大半が聴いていれば話し始めるように伝えている最中である。また、「同じです。」や「いい考えだと思います。」など様々な反応の言葉を掲示したり、よく聴いている人を見取って褒め、全体に広げたりしている。子どもから出てきたよい反応を取り上げて掲示に日々追加することで、自分なりの反応を選ぶ手がかりとしている。

「話す」という点では、話す場面を何度か設定することにより、「話し合いが楽しい。」という児童が多くなってきた。だが、全体に自分の考えを伝える場面では、まだ前や担任の方を向いて話す児童が見られる。また、小さい声がノートで遮られて、周りの児童にしか聴こえないということがある。その都度どの方向を向くのか、誰を目印として話せばよいのかを繰り返し指導しているところである。伝えるための練習として、一人練習やペア、グループなど段階的に行っている。ペアで伝える練習をしている時に、自信のない児童に「大丈夫だよ。」や「なんて書いたの？」など温かな関わりができる児童もいる。優しく声をかけている児童を認め、全体に広めている。

<これまでの関わり合い・ひびき合い>

これまでの学習では、子どもたちの自主的な気持ちを大切に取り組んできた。特に国語の物語文「ふきのとう」では、登場人物になりきって動きを付けたり、登場人物の気持ちを考えてセリフの話し方を考えたりしたいという気持ちをもっていた。練習したことを発表するという目標に向かって、みんなで協力し達成することで、自信に繋がったり、自分の成長だけでなく、友だちの頑張るも認め合えるようになってきた。また、説明文「たんぽぽのちえ」では、初発の感想や話を読み進める中で出てきた、疑問に思ったことを取り上げながら、みんなで解決していく経験を積んできた。自分の考えを持てない児童でも、友だちの考えを聴き、

よい考えだと思ったものをまねしながら書けるようになってきた。考えを書くときには、空想でなく、話を想像したり、根拠を持って話せるように叙述に沿って考えたりできる児童が多くなってきた。だが、叙述を書くだけでその後に自分の考えがない児童もいて、説得力のある説明がまだ不十分である。話し合いでは、様々な意見を聴き、学習の最後には「はじめは分からなかったけど、〇〇さんの考えで分かりました。」や「〇〇さんの考えと一緒に、やっぱりそうだと思います。」などの振り返りができるようになってきた。話し合いを通して、自分の考えと同じ人や違う人がいることや、新たな視点を知ることができ、児童はとても意欲的に参加している姿が見られた。

4. 単元と指導について

<単元について>

本単元では、学習指導要領第1学年及び2学年の教科の目標である、「日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。」にあたる。また、学習指導要領の内容C読むこと(工)の「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する。」を重点においている。登場人物の行動やセリフを参考にしながら、想像していくことをねらいとしている。

本教材は、登場人物の気持ちの変化が、周囲の情景とともに簡潔な文章の中に描かれている。また、主人公の行動によって場面が展開していき、児童にとっては物語を理解しやすい教材である。

また、「うんと考えた」や「ぼくが目になろう」といった叙述から、スイミーが知恵や勇気を絞って頑張っている姿を想像することができる。そして最後には、小さな魚たちと協力して大きな魚を追い出すところから、仲間と協力する大切さを感じることができるであろう。

このように、登場人物の心情がはっきりしているので児童は共感しやすい教材である。また、表現が簡潔で、体言止め、比喩、倒置法などの表現方法もあり、リズムカルな文体である。挿絵も色とりどりで、海の中の素晴らしい様子が描かれており、叙述や挿絵の様子を想像することでさらに物語に入り込むことができるであろう。

<指導について>

「スイミー」は、絵本で読んだことがありすでに知っている児童もいるが、題名が書いてある始めの挿絵を見せながらどのような話か想像させてわくわくした気持ちで範読を聴くようにしたい。初発の感想では、「たんぼのちえ」と同じように「思ったこと」や「なぜ」、「分からない言葉の意味」の3つに分けて、感想を書くようにする。感想を交流した後、どのように学習していくのか投げかけると、「音読劇したい。」や「紙芝居したい。」、「スイミーの手紙書きたい。」という意見が出てくるだろう。また、誰かに見せたいという意見も出てくるだろう。話し合う中で、「お話を読んで紹介しよう」だから手紙が良いのではないかという話になるだろう。また、子どもたちは、以前懇談会で保護者に見てもらった経験があり夏休み前に見てもらう日がないことを知ると、1年生に紹介したいという話になるだろう。1年生にあげる手紙では、どのようにすれば伝わるか、スイミーを見たいと思ってもらえるかを工夫しなければならない。児童の考えを大切にしながら、手紙作りを進めていく。

お話を読んで紹介するために、どのように学習を進めていくのか子どもたちに聞くと、スイミーの気持ちや内容(状況)を知らないといけないという意見が出てくるだろう。状況や場面を意識して、話を分けながら、読み進めていきたい。また、分からない言葉の意味や自分が想像したこと、スイミーの気持ちが書き込めるようなワークシートを活用する。

話を読み進めるときには、場面ごとにスイミーの様子や気持ち、行動が分かる言葉がある。その言葉に着目させながら、どのような気持ちなのかを考えさせていく。子どもたちは、スイミーになりきって豊かに想像しながら書くであろう。その中で、2場面の兄弟がまぐろに食べられたところでは、「自分だけ逃げて申し訳ないという気持ち」と「自分は助かってよかったという気持ち」の2つが出てくるであろう。また、1場面と4場面の兄弟は、同じなのかという疑問や、4場面でスイミーが3回考えたところ、またなぜ大きな魚になって追い出すとい

う作戦にしたのかという疑問が出てくるだろう。スイミーの気持ちを想像する中で、矛盾する気持ちや疑問に思ったことをその後みんなで考えることにしたい。自分の考えを書くときには、空想ではなく、叙述を参考にしたり、想像を膨らませたりしながら書くように指導していく。また、話し合い後は、感想を書かせるようにする。みんなで話し合っ、どんなことが分かったか、話し合う最初と最後を比べて自分の考えはどうかを書かせる。その文から、一人ひとりの考えや変容が見とれるだろう。また、児童のノートで変容や強化された考えを書いてあるものをみんなに紹介しながら、どのように書くのか参考にさせたい。

本時で児童が解決したい学習問題は、「なんでスイミーは、大きな魚のふりをするさくせんにしたのかな？」である。今までの話し合いと同じように、自分の考えを書き、その後みんなで話し合うことにする。自分の考えを持ち、友だちの考えを聴くことで、「〇〇さんと同じです。」や「その考えもよいと思います。」などの反応があるだろう。友だちの考えに共感したり、新たな考えを認め合ったりする姿をひびきあいの姿としたい。学習の最後には、「今日の話し合いをして～」という出だして、ノートに感想を書かせる。話し合いをすることを通して、みんなで学ぶよさを感じてほしいと願っている。

ノート指導では、まず自分の考えをしっかりと書かせる。そのことで、自分の考えをはっきりさせ、話すときの手がかりとなる。また、友だちの話を聴くときにも、どこが違うのか、一緒なのかを理解することができるからである。考えの書き方で見本となる児童のノートを紹介したり、掲示したりする。その際に、どのように振りかえっているから良いのかの視点を伝えて、次の学習の振り返りにいかせるようにしていきたい。

5. 単元構想

単元構想 第2学年3組 国語科「スイミー」全12時間 7月14日（木） 2校時

単元目標

◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。

○身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。

○粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って物語の紹介文を書こうとしている。

今までどんな話を読んできたかな？

1年生の時 2年生の時

物語文

・やくそく ・ふきのとう

・くじらぐも ・

・たぬきの糸車 ○

・すうっと、すっと、大すきだよ

・音読劇楽しかったな

・また誰かに見せたい

- 【どうやって学習しようかな？】
- ・音読劇にしたいな。
 - ・紙芝居にしたい。
 - ・お手紙は？
 - ・お家の人とか1年生に見せたい。
 - ・でも紹介しようって書いてある。
 - ・どうやって紹介しようかな。
 - ・紹介だからお手紙が良いんじゃない？

- ・スイミー知っている。
- ・どんな話かな、楽しみ。

「スイミー」を読んで感想を交流しよう。①②

- ・最後は、大きな魚になってマグロを追い出してすごい。
- ・いろいろな生き物が出てきて、楽しかった。
- ・スイミーは、兄弟を食べられちゃってかわいそうだったけど、最後みんなで協力してすごい。
- ・お話を読んで感動した。
- ・なんでスイミーって名前なのかな？
- ・スイミーだけ、なんで黒いの？
- ・まぐろがスイミーの兄弟を食べて、かなしい。
- ・スイミーは、マグロから逃げられて泳ぎが早い。
- ・スイミーはすごい。
- ・スイミーは勇気がある。
- ・悲しかったけど、元気を取り戻して、よい子だと思った。
- ・なんで大きな魚のふりをする作戦にしたのかな？
- ・スイミーは、たくさん冒険してすごい。
- ・赤い魚たちがまた出てきて、ふしぎ。
- ・もちばって何？
- ・見えない糸でひばられているって何？
- ・カラス貝って何？
- ・ドロップって何？
- ・水中ブルドーザーって何？
- ・感想を書く時に思ったこと、疑問、分からない言葉などを書くように伝える。
- 〃 ・物語を読んで、自分が感じたことや思ったことについて感想を書くことができる。 〃
- 〃 【主体的に学習に取り組む態度】 〃

スイミーの話を1年生に手紙でしようかいしよう。

- ・気持ちを知らないといけな。
- ・お話をしっかり知らないといけな。

スイミーの話を知って、気持ちを考えよう。③④⑤⑥⑦

・分からない語彙を調べ、挿絵や写真を見せて、イメージできるようにする。

【登場人物】

スイミー

おそろしいまぐろ

小さな魚の兄弟たち

にじ色のゼリーのようなくらげ

水中ブルドーザーみたいないせえび

見たこともない魚たち

見たこともない魚たち

ドロップみたいな岩から生えているこんぶやわかめの林

うなぎ、顔を見るころにはしっぽをわすれるほど長い

もも色のやしの木みたいないそぎんちゃく

スイミーのとそっくりの小さな魚の兄弟たち

大きな魚

・場面や登場人物の行動や言葉や気持ちを確かめる。

・登場人物の行動や挿絵を参考にして、場面の様子を理解し、登場人物の気持ちを想像することができる。【思考・判断・表現】

場面	1 場面	2 場面	3 場面	4 場面	5 場面
場面なまこめ	小さな魚の兄弟たちと楽しくくらしているスイミー	まぐろに兄弟たちをたべられてかなしいスイミー	すばらしいものを見てだんだん元気をとりもどしたスイミー	なかまを見つけて、大きな魚をおい出すために考えたスイミー	さくせんを立てて、れんしゅうをかさねて、大きな魚をおい出したスイミー
スイミーの気持ち	・たのしいな ・何してあそぼうかな ・むこうまできょうそうしよう ・やったー、またかっちゃった ・みんなとくらせてしあわせ ・さいこう ・いごこちがいいな ・広い海っていいよね ・電車ごっこしよ ・ずっとずっとこの生かづがつづくといいな ・このばしょにすんでよかった ・きょうだいとあそべてたのしいな	・たすかってよかった ・にげろ ・こわいよ ・たすけて ・かなしいな ・みんなごめんね ・一人ぼっちでどうしよう ・くらいよ、こわいよ	・なにここ！ ・すごーい ・たのしいな ・見たことない ・こんなすてきなものがあるんだ ・くらげがいろいろな色でかわい - い ・もっとぼうけんしたいな ・ほかにもあるのかな ・おもしろい ・ほかの魚はいないかな	・あれ？にってるな ・え？まさか！ ・赤い魚がまた出てきた、ふしぎ。 ・なんで出てこないの ・いっしょにあそびたいな ・どうしようかな ・考えよう ・こんどはまけないぞ ・みんなが安心できるようにしなくっちゃ ・なにかできないかな ・なんで大きな魚のふりをするさくせんにしたのかな	・やったー ・さくせん大せいこう ・みんなで力を合わせておい出せたよ ・もう大じょうぶ ・よかった ・これであん心だ

さいごの赤い魚たちは生きかえたのかな？⑧

生きかえた

- ・にっているから。
- ・にげたんじゃない。
- ・小さな魚のきょうだいたちって書いてあるからいっしょ。

生きかえてない

- ・同じ赤い魚だけど、兄弟じゃない。
- ・にげたのはスイミーだけって書いてあるから。
- ・「そっくり」だからにっているけどちがう。
- ・スイミーのとそっくりってことは、きょうだいこそっくりってこと。

・本文を参考にし、根拠をもって書くように伝える。

・登場人物の行動や本文の言葉を参考にして、場面の様子を理解することができる。【知識・技能】

なんでスイミーは、大きな魚のふりをするさくせんにしたのかな。⑨・⑩（本時）

【協力しておどろかす】

- ・力をあわせればできるとおもったから。
- ・大きな魚になれば、おい出せると思ったから。
- ・大きな魚がびっくりすると思ったから。

【あんしん】

- ・みんながあんしんするため。
- ・大きな魚がおそってこないようにするため。

【自分しかできない】

- ・スイミーはまっ黒だから、目になれると思ったから。

【こうかい】

- ・2場面できょうだいたちがたべられたから、もうたべられないようにするため。
- ・もうかなしいことがおきてほしくないから。

・登場人物の行動や挿絵を参考にし、場面の様子を理解し、登場人物の気持ちを想像することができる。【思考・判断・表現】

スイミーの話を1年生に手紙でしようかいしよう。⑪・⑫

- ・スイミーは、からす貝よりもまっくろなおよぐのがだれよりもはやい魚です。
- ・スイミーはきょうだいと楽しくくらしていた。
- でも、ある日一びきのおなかをすかせたまぐろがやってきて、きょうだいをたべてしまいました。
- ・かなしかったスイミーは、くらい海のそこをおよぎ、おもしろいものを見て、元気をとりもどした。
- ・そして、赤い魚といっしょに、大きな魚になるれんしゅうをして、大きな魚を追い出した。
- ・お気に入り、みんな大きな魚をおい出すところです。みんなできょうかしたのがかんどうします。ぜひ、読んでみてください。
- お気に入り、スイミーが元気をとりもどすところです。おもしろい生きものがたくさん出てきて、おもしろいです。ぜひ、読んでみてください。
- お気に入り、みんなでれんしゅうするところです。大きな魚になるためになん回もれんしゅうして、みんなできょうりよくして、すごいと思います。ぜひ、読んでみてください。

・登場人物の行動や本文の言葉を参考にして、場面の様子を理解して、手紙を書くことができる。【知識・技能】

・物語の内容が伝わるように手紙を書こうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

6. 本席について 第2学年3組 国語科「スイミー」

(1) 本席目標 学習問題について自分の考えをもち、お互いに考えを伝え合って、登場人物の気持ちを想像することができる。

(2) 本席展開

学 習 活 動	主な授課・留意点◆評価【観点】
あひは、 みんなが思っているため、これからは大空を飛べないようになりたがる。 じんしかできない。 スイミーは、翼がないので、目にならなかな。 こうかい。 さうだいいきかへられてかえりかつたから、さうだいいきかへられたから。 きょうかしておどろかず。 大空を飛ぶのは、おもしろい。おどろかなくていい。 「スイミーは、飛べない。でも、わたしは飛べる。」 なぜスイミーは大空を飛ぶのをめざしたのか。	・本席までに自分の考えをノートに書き、意図的に指名ができるように個々の考えを把握しておく。 ・今日のめあてを確認する。 ・話すための練習時間を取り、安心して話せるようにする。 ・ネームプレートを活用し、だれがどの意見なのか分かるようにする。発言が苦手な児童でも、学習の最後にネームプレートが使えたら、はるやかに近える。 ・大まかに仲間分けができそうところは、板書を工夫する。 ・本席の学習問題を振り返り、話し合いをして最終的にどのような考えなのか、ノートを書く。 ◆学習問題について自分の考えをもち、お互いに考えを伝え合って、登場人物の気持ちを想像することができる。〔思考・判断・表現〕

これまでの学習を活かして、「スイミー」ではどのように学習していきたいか子どもたちと考えた。子どもたちの思いを大切にしながら学習を進めることができた。音読劇や紙芝居などいろいろなアイデアが出る中で、ある程度の枠組みを決めて、その中で検討していった。子どもたちの意見をすりあわせながら、一つの目標に向かって、学習を進めることができた。

児童の意見を板書する際に、理由となりそうな本文や児童の考えで出てきた表現の似ている言葉、大切にしたいキーワードを残すようにした。また、なるべく同じ意見は近くに板書し、どの考えに近いのかを分かりやすくした。いろいろな意見が出てきたので、上手く板書できないところもあったが、教師が意識することが大切だと感じた。ノート指導については、プリントを使って学習を進めてきたが、分からない言葉や疑問に思ったことをどんどん書き込むようにした。そうすることで、焦点を絞って言葉の説明をしたり、写真を提示したりすることができた。また、スイミーの気持ちをたくさん書かせたことで、登場人物になりきって考えることができた。

課題としては、自分の考えを言うと周りの反応はあるのだが、その考えから「同じです。」や「違う考えです。」などの反応に繋がらず、話し合いではなく発表のような形になってしまった。ノートに自分の考えを書くときに、本文から自分はどのように考えたか、を書くことができていなかったのも、本文を書くことが自分の考えになっている児童がいた。もう一度考えの書き方を指導していきたい。また、いろいろな考えが出てきたが、話し合いで何が分かったのかがぼやけてしまった。一つの話題について話したり、つぶやきをひろって全体にかえしたりできると良かった。さらに深められそうな言葉や考えに着目して、問い返しができるようにしていきたい。